

# 養父市立大屋中学校

# 令和6年度 学校評価

(学校自己評価・学校関係者評価)

## 1 本年度の学校教育目標

伸びよ 豊かに たくましく ～未来の郷土を切り拓く生徒の育成～

## 2 本年度の学校重点目標

- (1) ころ豊かで自立する人づくり (小中一貫教育の推進、地域連携の推進)
- (2) 「生きる」力を育む教育の推進 (確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成・特別支援教育の推進)
- (3) 教職員の資質能力の向上 (教職員の協働体制の確立、実践的指導力の向上、教職員の働き方改革の推進)
- (4) 安心、安全で魅力ある学校づくり (生徒指導の充実、人権教育の推進、安全教育の推進、コロナ対策)

## 3 学校自己評価結果 (A 良好 B 概ね良好 C やや努力を要する D 一層の努力を要する)

分野	評価項目・評価内容	達成状況	学校の取組状況・改善の方向
学校運営	開かれた学校づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりを作成し、学校での様子を保護者や地域に発信した。ホームページでも、生徒の活動の様子などを載せており、保護者の方だけでなく地域の方々にも学校の様子を知ってもらうことが概ねできている。また、学年通信を毎月発行し、行事予定や学年の様子を写真や文書で伝えることができた。</li> <li>授業参観を5月に行った。また、体育祭・文化祭を土曜日開催にし、多くの保護者・地域の方々に来校してもらった。</li> <li>ミズパシヨウ公園や明延・神子畑選鉱場体験学習、青谿書院や木彫フォークアート見学など、地域に直接出向いて学習することができた。</li> </ul>
	危機管理体制の整備	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災計画に従って防災に関する授業や避難訓練等を実施した。</li> <li>6月と1月に避難訓練を実施し、1月の避難訓練(地震)では、兵庫県震災・学校支援チーム(EARTH)から講師を招き防災集会を行い、阪神淡路大震災の知識を深め、防災意識を高めることができた。</li> </ul>
	教職員の資質向上	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の講師を招いて、小中合同で2回研修会を行った。10月に、小学校5年生のクラスで道徳の授業研究を行い、小中合同で事後研究会を行い研修を深めた。</li> <li>救命救急講習・SC講話等で研修会を深めた。しかし、授業研究では、年度当初の計画通りには進められず、来年度の課題である。</li> </ul>
	勤務時間の適正化	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員定時退職日の完全実施が行われている。職務の優先順位を明確化したりして、強弱のある働き方をするよう意識改革を進めている。</li> </ul>
	校種間連携(小中一貫教育)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>大屋小中合同研修会を2回開催した。つながり部会と授業改善部会に分かれて研修を行った。つながり部会では、すべての児童・生徒にSNSの利用について実態調査を行い現状把握に努め、児童生徒・保護者にも啓発することができた。授業改善部会では、小中共有の学習ルールを明確にして学習に取り組む姿勢の改善に努めた。</li> <li>6年生登校も2回実施した。</li> <li>今年度は、音楽・英語(ALT)で中学校の教師が小学校5・6年生を対象に乗り入れ授業を行い校種間連携を深めた。</li> </ul>
教科	基礎基本の定着と個に応じた指導	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台のタブレットを有効活用して授業に取り組んでいる。</li> <li>指導形態を工夫しながら生徒の学力向上を目指した取組を行っている。今年度は、数学と英語で少人数指導を行い、学習活動の充実が図れた。</li> <li>3観点の評価について、評定との関係を明確にした。</li> <li>定期考査前に、学習相談日を設けて、生徒の個に応じた質問に答えるようにしている。</li> </ul>
	人権・道徳教育の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部から講師を招聘して、年間2回行った小中合同研修で、教員の資質向上を図った。</li> </ul>
	読書活動の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館開放や朝読書、お話プレゼントなどで、読書活動の推進を図っている。</li> <li>毎日の朝読書(8:15～8:25)に私語をせず集中して取り組んでいる。</li> </ul>

## 4 総合的な学校関係者評価

- 総合的に見て高評価に値する。手を抜いた取組があればそこから問題が発生するが、1年間安定した教育が推進されて良好であったと思う。
- 重点目標の4点については、概ね達成できている。
- 小学校と協力した一貫教育の取組について高く評価をしている。
- 小中を通して一貫した郷土愛を育む教育を進めることは素晴らしいことだと思う。
- 生徒と先生、地域と学校との距離が近い温かい環境が大屋町の良いところだと思う。今後も郷土愛や人とのつながりを大切にしたい教育活動を続けていっていただくとありがたい。
- 先生方の学校自己評価が厳しいように感じる。もっと自己評価を上げてほしいと思う。

## 5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりは、多くの住民が学校生活を知る唯一のもので、写真を多く活用し、より見やすくしていただきたい。</li> <li>学校だより、学年通信等による情報発信、地域での体験活動はしっかりとできている。</li> <li>生徒が地域の歴史や文化・自然を学ぶ機会を増やしていく。</li> <li>子どもが持ち帰る学校だよりや、回覧板でのお便りを見て、学校の行事や近況がよく分かるので、地域の方にも情報発信がしっかりとできている。</li> <li>中学校に通ったことはないが、「学校だより」を見て学校の様子を知る機会になっており、良い取組だと感じる。</li> <li>大屋町は、明延鉱山という日本遺産も近くにあり、木彫フォークアート等、文化・芸術をすぐに学べる地域だと思う。地域の良さを知る学習を通してシビックプライドの醸成にもつながる素晴らしい活動だと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>災害の比較的少ない地域だからこそ、防災教育を充実させ、意識を高めていく必要がある。</li> <li>訓練だけでなく、集会により知識を得られる機会をもつことは大切なことである。</li> <li>生徒一人ひとりに防災意識を持たせることが重要であるため、引き続きの訓練等を実施してほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>教師各自の自己研鑽を高める計画を考えてもいいと思う。</li> <li>研修・実践等により、資質の向上に努めてほしい。</li> <li>教職員も忙しい中、研修等なかなか大変だとは思いますが、時間を確保し資質の向上に努めてほしい。</li> <li>小学校が近くにあるため、小中合同での研修会は、教職員同士の交流や刺激を高め合う場として良い機会になっていると思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な業務がある中で、定時退職ができている現状を維持してほしい。</li> <li>定時退職ができるよう、業務を計画的に進め、教職員同士が協力しながらコントロールすることが大切である。</li> <li>中学校では部活動の指導もあるため、ワークライフバランスの適正化は難しい課題と感じる。部活動への積極的な外部講師の活用等を検討してはどうか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>小中の連携を深め、一貫した教育ができるようにお願いしたい。</li> <li>小中合同の研修や6年生登校等、しっかりとした連携ができていると思う。</li> <li>小中学校が共に良い関係性を保ち、小中一貫教育に努力している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の状況に応じた教育の推進をしてほしい。</li> <li>少人数指導や個別の質問対応等が学力につながっていれば良いと思う。</li> <li>タブレットを使用している授業や、少人数指導など一人ひとりに合った学習指導がされており評価ができる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が研修で得たことを生徒に伝え、実践してもらいたい。</li> <li>人権・道徳の教育は特に力を入れて取り組んでいくべきである。</li> <li>道徳での小中合同の研修会は、有意義な取組だと思う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>本に触れる機会が少ないと感じるので、本を読む習慣がつくよう、朝読書は継続してほしい。</li> <li>近年、特に本離れが進んでいると感じるので、読書をする習慣をしっかりと身につけさせてほしい。</li> </ul>

及び教科外の学習指導	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達や学年の系統性を踏まえた内容になっている。</li> <li>○ 「キャリアノート」・「キャリアパスポート」は計画的に活用している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリアノート」と「キャリアパスポート」の活用について、小中9カ年を見通した指導を行っている。</li> <li>・キャリアノートをファイリングして、どの学年に上がっても、振り返りやすいようにし、キャリア教育の積み上げとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自分自身を見つめ直す良い機会になると思う。</li> <li>・小中学校を通してキャリアノートを活用しているのは、一人ひとりの指導に役立つと思う。</li> <li>・小学校から一貫した取組であるため、とても良いと感じる。</li> </ul>
	情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育活動全体において、ICT機器を適切かつ効果的に使用し、教育効果を高めている。</li> <li>○ 情報モラルの育成と情報活用能力の育成を図っている。</li> <li>○ 一人一台のタブレットを有効に活用している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大屋中学校生徒会SNS利用の6か条」をもとに、SNS・ゲーム使用の3本柱について意識調査や啓発活動を行った。</li> <li>・一人一台タブレットを活用して、欠席者に授業配信を行った。</li> <li>・授業では、動画発信や振り返り学習、表計算学習など、ICT機器を活用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨今、問題になっているSNS等の情報モラルの学習を徹底してほしい。</li> <li>・SNSの使用や危険性等の啓発を続けていってほしい。</li> <li>・タブレットやICT機器については有効に活用できている。</li> <li>・近年、SNSに関係した事件やトラブルが増加しているので、便利さと恐ろしさの指導の工夫が求められる。</li> <li>・中学生になるとほとんどの生徒がスマホを持っていると思う。上手なスマホとの付き合い方を保護者も含めて学ぶ必要性を感じる。より一層の取組の強化を期待する。</li> </ul>
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援教育に関する理解を促す研修等が計画的・組織的に行われている。</li> <li>○ インクルーシブ教育システムの構築に向けて、施設や設備の整備、教材や指導体制等の工夫が図られている。</li> <li>○ 校内教育支援委員会のもと、個別の指導計画・教育支援計画が作成され、全教職員の共通理解のもと、個に応じた指導・支援が組織的に行われている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心に、一人一人の教育的ニーズに応じた個別の指導計画や個別の支援計画を作成し、それを基に特別支援教育の取り組みを進めた。</li> <li>・和田山特別支援学校の講師を招聘し、学期ごとに授業を参観してもらった後、担任と面談をして指導助言を受けたりした。講師からの助言を教職員で共有し、指導の仕方を工夫した。</li> <li>・通級指導により、対象の生徒のコミュニケーション能力の向上やソーシャルスキルの向上を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修や講師からの助言を教職員で共有できていることは良い。</li> <li>・一人ひとりにそれぞれの支援の仕方が異なるため非常に難しいとは思いますが、担当教職員の専門的知識と、これまでの経験を生かしながら個に応じたきめ細かな指導の充実を推進していってほしい。</li> </ul>
生徒指導・その他	あいさつ・掃除	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校・地域の中で気持ちの良い挨拶ができています。また一生懸命掃除に取り組んでいます。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り班清掃により、3年生のリーダーシップが醸成されている。学期始めに環境委員会が清掃集会を行い、清掃の仕方について学習できた。毎学期末に、優秀な班を環境委員会が表彰し、伝統を引き継ぐ取り組みを行っている。</li> <li>・生徒会の生活部会によるあいさつ向上の取組で、あいさつの声の意識ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民からも評判の良い「あいさつ」を更に向上させていってほしい。</li> <li>・登校時にしっかりと声を出してあいさつをしてくれる生徒が多いので、しっかりと意識ができていていると感じる。</li> <li>・清掃での縦割り班活動の取組は、今後も役に立つことばかりなので継続していってほしい。</li> <li>・小学校からあいさつに力を入れている大屋校区ですが、小学校同様にあいさつを意識した取組を高く評価している。</li> </ul>
	いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いじめアンケートによる実態把握や教育相談を通して、生徒理解を深めている</li> <li>○ いじめの未然防止と早期発見に心がけた取組をしている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月のいじめアンケートによる実態把握や、毎週行っている生徒指導部会による各担任や関係の職員の見取りを通して、未然防止、早期対応に心がけている。</li> <li>・毎学期の担任との教育相談や、毎日のデイリーノートから生徒理解を深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態把握と早期の対応に努めてほしい。</li> <li>・早期発見ができるよう、今後も取り組んでいってほしい。</li> <li>・こまめにアンケート調査や実態把握をされており高く評価できる。</li> <li>・思春期を迎えるため、小学校に比べると自意識が高まる年齢だと思う。そのため、いじめアンケートも有効だと思う。</li> </ul>
	生徒理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指導に対する教職員間の共通理解、「報連相共」が十分できている</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の「報連相共」による情報共有、毎日の職員打ち合わせによる情報交換、毎週の生徒指導委員会、職員会議後に行われる生徒指導情報交換等により、十分な情報共有が図られ、生徒や保護者への対応に齟齬が起こることがないように取り組めた。</li> <li>・教職員が休み時間等も教室に上がり、生徒との人間的なふれあいの時間を大切にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員間での情報共有や生徒とのふれあいがしっかりとできており、継続していってほしい。</li> <li>・報連相は社会一般でも大切なことなので、生徒間・教職員間・保護者間でも情報を共有し、良好な関係を保ってほしい。</li> </ul>
	不登校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 不登校生徒の早期発見・対応に心がけ、職員間で連携して指導ができています。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒には、SC、SSW等の関わりを密にしてもらいながら、本人の現状把握をし養護教諭、学年職員と管理職で、機動的に対策を考えながら取り組んでいる。</li> <li>・校内サポートルームを開設し、登校しにくい生徒・教室に入りにくい生徒に対応できる体制を整えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりの状況を考慮して、対応をお願いしたい。</li> <li>・学校に登校しにくい生徒の居場所が開設してあることは良い。</li> <li>・不登校生徒の問題は全国的にも大きく取り上げられている。大変デリケートな問題でもあるが、研修を積み重ね、少しでも登校につながるきっかけづくりができるよう工夫してほしい。</li> <li>・不登校については、登校しなくてもオンライン授業等で、自宅で学習できる体制が必要だと思う。自宅にいても学習できる環境が整備されることで「不登校」という言葉自体がなくなると思う。</li> </ul>
	そうあんくんの日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「そうあんくんの日」に積極的に取り組み、生徒に自主的な家庭学習や読書を指導している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうあんくんカードを作成して、振り返りができる取組を進めている。また、そうあんくんだよりを発行して、取り組みを紹介するなどの啓発活動をして少しずつ成果をあげている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の偉人の名を付けた活動は、長く記憶に残るものとして良いと思う。</li> <li>・他の人の取組の紹介で、自身の行動の幅が広がっていけば、良い取組になると思う。</li> <li>・「そうあんくんの日」の取組は、するとならないのでは大きな差があると感じるので、是非継続をして取り組んでいってほしい。</li> <li>・「そうあんくんの日」は、小学校から定着しているため、継続的な実施を望む。</li> </ul>